

令和3年度に向けた政府への政策提案・要望等にかかる 国会議員との意見交換会 結果概要【嘉田議員】

日 時： 令和2年5月21日（水） 17:15 ～ 17:45

場 所： 各国会議員事務所、危機管理センター2階災害対策本部室 ※Web 会議

出席者： 参議院 嘉田議員

滋賀県 三日月知事、西嶋副知事、由布副知事、水上知事公室長、
廣脇総合企画部長、江島総務部長、石河琵琶湖環境部長、
川崎健康医療福祉部長、森中商工観光労働部長、福永教育長、
東東京本部長

■三日月知事あいさつ

■嘉田議員あいさつ

■廣脇総合企画部長から「令和3年度に向けた政府への政策提案・要望」について説明。

■石河琵琶湖環境部長から「令和3年度に向けた琵琶湖の保全および再生についての提案・要望」について説明。

《意見交換》

[嘉田議員]

- 新型コロナウイルス感染症について、ポストコロナの社会に向けてという20ページほどのレポートを書き上げたところ。また、皆さんに見ていただければと思う。ポイントは3つある。
- 1つ目は、グリーンニューディールが一時期にぎわったものの、コスト等の問題によって再生可能エネルギーがなかなか定着しなかったが、改めて再生可能エネルギーを見直していくべきだと考える。そして、原発に依存しないエネルギービジョンを作ることが、グリーンニューディールの大事な柱になると思う。
- 2つ目は、交通体系で石油エネルギーを大量に使ってきたが、脱石油ということで、電気自動車が今後益々普及していくと思う。
- 3つ目は、シェアリングエコノミー、シェアリングソサエティーである。今までから技術的には可能であったものの、なかなか進まなかった Web 上での会談等も、新型コロナウイルスで追い込まれて初めて社会に浸透してきたと思う。また、全体としては、これまで問題だった中央集権から地方創生がどんどん進んでいくと思うし、進め

ていかなければならないと思う。地域主権、地方自治をもっと進めていくことが、ポストコロナ社会の一つのモデル、ビジョンになると考える。

- 新型コロナウイルスに限らず感染症の問題は、牧畜の発展や都市の発展等で、野生の側にいたウイルスが人間社会に近付いてきたことに起因しており、つまりは自然破壊が原因である。よって、自然保護や開発の見直しをしなければ、今後、何百万種あるウイルスと付き合っていくことができない。今回、東京にいて分かったが、やはり安全性は田舎にある。過密ではなく、適疎社会が見直されたと思う。今こそ、滋賀が力を入れて発信していかなければならないと思う。これがグリーンニューディールのアイデアの一つである。今回の新型コロナウイルスで、人の健康がここまで社会全体に影響を及ぼすと誰もが想像していなかったが、「健康しが」の取組はまさに時代を先取りしたものだと言える。これからも力を入れて取り組んでほしい。
- 3月からずっと抗体検査の必要性を訴えてきた。新型コロナウイルスは、致死率が高いと思われているが、それは、PCR検査の数が少なく分母が小さいからである。症状が出にくい感染症に対しては、抗体検査を実施するしかない。抗体検査により、かかりやすいが致死率は低いというウイルスの本当の姿が見えてきて、それにより政策自体が大きく変わってくると考える。
- 経済が破壊されたことで、自殺者が増えたり、家族内で精神的な軋轢からくる不幸が発生したりすることは、あつてはならない。新型コロナウイルスで亡くなるよりも、自殺等の方が怖い。そこを政策として、地域でお考えいただけたらと思う。

[三日月知事]

- ポストコロナのことは、我々もしっかりと考えていきたい。新型コロナウイルス感染症が発生する前の社会に全て戻していくのではなく、戻していいものと戻さなくていいもの、また、これを機に社会変革を起こしていくものとを、しっかりと見極めて施策に落とし込んでいくことが必要であると考えている。議員が書き上げられたレポートもしっかりと勉強していきたいと思う。
- 滋賀は、ほどほど都会で、ほどほど田舎なので、こういう時に良いのではないかとおっしゃる方がよくおられる。自然空間がたくさんあるという暮らし等については、自信を持って発信していきたいと考えるが、県内の発生状況を見ていると、京都・大阪とつながりの深い、JR沿線等で感染者が出てしまっていた。人の移動を全て制限できない中において、感染症の拡大をどうやって防いでいくのかということは、今後に向けての非常に重要な課題であると思っている。

- 議員が早くから提唱されてきた抗体検査を含め、国では抗原検査も言われている。
これからウイルスと付き合っていくことを考えると、こういった検査を施策に活かしていくということは重要だと思う。

- 今回得た教訓を活かし、今後の第二波、第三波、またそれ以外の新型インフルエンザ等が来ることを想定して対策を講じてまいりたい。様々な御指南、御視座をいただければと思う。

[嘉田議員]

- 1990年代に、これからの医療は癌と循環器、生活習慣病という国の方針の下、国も県も感染症対策をどんどん縮小（感染症病棟を全国で8割カット）してきたが、今回の新型コロナウイルスにより、各地域の脆弱な保健所体制や感染症対策の実態が明るみになったと思う。感染は、増えることはあっても減ることは無い。国に対して、一旦減らしたものを戻す、そしてこれからの時代に合わせるということを提案していきたいと思う。

- 子ども達の教育に、ぜひ抗体検査を入れて、免疫について学んでほしいと思う。「健康しが」の原点は、免疫を付けることだと思う。滋賀らしい、元気で生きる力を持った子供が育ってほしい。